

佐渡国際トライアスロンに協賛

新潟県の佐渡島で開催された「佐渡国際トライアスロン大会」に3年連続で協賛。

トライアスロンやマラソンのような持久力が必要なスポーツにおもちがぴったりな食品であることに加え、おもちの美味しさや食べやすさなど、国産水稲もち米100%でつくられた包装餅の魅力を広くPRしました。

将来のアスリート達に向けて、おもちの良さを伝える！

◆8月31日(土)

開会式と選手登録の受付会場となったアミュズメント佐渡にて、参加選手を対象に切り餅セット(切り餅、リーフレット)をサンプリングしました。

開会式のステージにはスポンサーとして、全国餅工業協同組合の長田俊二専務が登場しました。

また、メイン会場で行われた「佐渡ジュニアトライアスロン」の参加選手(小中学生)や応援に訪れた家族に焼き餅約600食を配布。レースを終えて空腹な子どもたちにも大好評でした。

神奈川県から参加したレネさん一家は、お子さん二人がジュニアトライアスロンに、そしておとうさんは翌9/1に行われる国際Aタイプにエントリー。

「祖国フランスでは、炭水化物はパスタが中心だったけど、日本ではオモチが一番イネ！」とご満悦。娘さんはちびっこクラス女子の部で見事2位に輝きました。



「10月10日はおもちの日」と「スポーツにはお餅パワー」をPR！

◆9月1日(日)

大会当日、高波の影響で日本選手権クラス以外はスイム(水泳)を省いて競技が実施されました。

全国餅工業協同組合では、メイン会場に隣接する広場に特設テントを設け、焼き餅約3,000食を配布。砂糖醤油の香ばしい匂いが漂う中、選手や応援に訪れた多くの人々にお餅の素晴らしさを実感して頂きました。

さらに、今年は「おもち大明神」というモニュメントを製作し、前日の受付会場及び当日のメイン会場に設置。おみくじで大吉が出れば記念写真を撮影してその場でプレゼントするなどのPR活動を展開しました。

選手たちが完走を祈願して記念撮影をしたり、大会当日には子どもたちの行列ができるほど大好評でした。

注目の日本選手権クラスで見事優勝した高濱邦晃選手(34才)は、レースの前日や当日の朝に意識して炭水化物を摂取するよう心掛けているそうです。また、お餅も好きで、祖父母の家で毎年、杵と臼でお餅つきをするのが恒例行事とのことです。

同じく日本選手権3位に入った河原勇人選手(35歳)は、大会当日の朝もお餅を食べ、レースに挑んだそうです。

「海外の大会に行くと、パンとかよりもお餅を食べるほうがほっとするので、常にパックのお餅を持参して、水で浸してレンジで温めて、きな粉と砂糖をまぶして食べています。お餅はかさばらないし、腹持ちがいいので、レースに最適ですよ」と推薦してくれました。

また、全国餅工業協同組合の一員である(株)きむら食品から、社員の加藤知愛(ともなる)選手が国際Aタイプに出場しました。トライアスロン歴約10年の加藤選手は佐渡への出場は今年で4回目。レース当日の早朝には、お湯に浸すだけで簡単に食べられる超うす切りの「しゃぶしゃぶもち」を食べて栄養補給。

ゴール付近ではご家族や組合員に囲まれながら、みごと自己ベストの154位で完走しました。

メディアを通じてお餅をアピール！

メイン会場からは、地元のサドテレビによる生中継が行われ、島内のケーブルテレビネットワークと共に全世界へ向けてインターネット配信も行われていました。

全国餅工業協同組合も4分間にわたるロングインタビューを受け、お餅の栄養効果やスポーツとの相性の良さをアピールし、焼き餅の配布やおもち大明神なども紹介させて頂きました。

さらに、大会翌日の表彰式・閉会式では、(株)きむら食品の木村金也社長がステージに上がり、アミューズメント佐渡の大ホールに集まった約1,000名のみなさんとジャンケン大会を実施。みごと勝ち抜いた2名の方に切り餅一年分をプレゼント致しました。

